病　院　だ よ り　　2017年8月号　第357号

昭和大学病院　検索

昭和大学病院附属東病院　検索

発　行　昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者　昭和大学病院長　板 橋　家頭夫
編集責任者　広 報 委 員 長　中 村　清　吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
ＴＥＬ：03-3784-8000（代表）

リハビリテーションセンター長就任のご挨拶

昭和大学病院　リハビリテーション科　依田　光正

このたび、リハビリテーションセンター長を拝命いたしましたので、ご挨拶させていただきます。(「リハビリテーション」は少し長いので以下は「リハ」と略します。) これまで、水間正澄リハ医学講座前教授のご退任の後、板橋家頭夫病院長に代行いただいておりましたが、小生が務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

皆様ご存知のように、昭和大学病院・東病院は超急性期医療を担う上で多職種参加のチーム医療が推進しております。早期回復のための早期リハの重要性が増すなか、多くの診療科・病棟と関わりを持つリハセンターは重要なポジションにあると言えます。そして、今年度、そのリハセンターに三つの大きな変化が起きようとしています。

まず、この５月東病院にリハ室が新設されました。東病院は神経内科など急性期リハを必要とする患者を多数抱えていますが、これまでは患者を大学病院へ搬送してリハ訓練しており、搬送車での移動が難しい急性期患者にはリハ訓練ができませんでした。今回、リハ室を開設し、スタッフを配置することで施設基準を取得し、リハ室はもちろんのことベッドサイドでもリハ訓練が可能となりました。これにより、急性期から対応可能となり、リハ施行数も増えています。

次に言語聴覚士の増員です。これまでリハセンターには２名の言語聴覚士が所属していましたが、実質は口唇口蓋裂センターで形成外科の先生のご処方のもと主に小児の器質的構音障害の外来リハを行っておりました。今年度、１ 名が退職しましたが、３名の新しい言語聴覚士が入職し計４名となり、これまで手付かずであった失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害など本来言語聴覚士が対応すべき障害のリハ訓練がスタートしております。ただし、これまでの流れから週の半分以上が口唇口蓋裂センターでの外来リハにあたっており、そのほかの症例にはまだ十分な対応ができず関係各科にはご迷惑をおかけしております。なお、大学法人のご理解によりここ数年で言語聴覚士だけでなくリハスタッフは増員され、現在、大学病院：理学療法士 12 名（うち ３ 名は主に心臓リハを担当）・作業療法士７名・言語聴覚士４名、東病院：理学療法士 ４ 名・作業療法士 ３ 名が勤務しております。原則、外来での通院リハは行っておらず（例外的に前述の形成外科外来、術後など整形外科の一部、循環器内科による心臓リハはあり)、急性期医療の一環として入院リハの充実に努めておりますが、まだまだマンパワー的に十分対応できているとは言えません。リハ訓練は、診療報酬上 20 分を１単位とし、各療法合わせて １ 患者 １ 日６単位（急性期脳血管疾患等は９単位）まで施行可能ですが、たかだか 2-3 単位しかできないのが現状です。

三つめは年明けに予定されている電子カルテ導入です。電子カルテの導入で、より早期の訓練開始など効率の向上、情報共有によるチーム医療の充実、また、患者リスク管理など医療安全面においても改善が期待されます。電子カルテの導入で大きくシステムが変更されることが予想されます。リハ施行にはリハ総合実施計画書の作成が必要であり、現在も主治医・病棟看護師にお手数をおかけしていますが、システム変更後もお願いすることになります。現在、なるべくスムースに訓練がスタートできる方法を思考中です。

これまで長年問題点とされていたことがこの一年で変わろうとしています。これらの変化を追い風にして、「昭和大学が No.1」と患者さんに思っていただける病院になるための一助になるようにリハセンターを盛り上げていきたいと考えております。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻、そしてご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

病院医療最前線!!　Vol.12
「神経内科」

神経難病など、多彩な疾患に対応し、患者さんの立場に立った医療を実践します

神経内科は脳神経や背髄・末梢神経・筋肉の疾患を専門とする科です。精神科（神経科・心療内科）とは異なり身体医学的な病気が主体になります。主な対象疾患としてアルツハイマー病などの認知症、パーキンソン病など変性疾患、脳血管障害、髄膜炎などの神経感染症、てんかんや頭痛などの機能性疾患、末梢神経・筋疾患が挙げられます。

診療体制

臨床心理士の協力のもとで行う神経心理学的検査、画像検査、各種バイオマーカーを用いて認知症や変性疾患、高次脳機能障害の的確な診断、評価と治療を心がけています。脳血管障害の急性期治療、二次予防にも力を入れています。また誘発電位・筋電図検査装置を活用した末梢神経や筋疾患の的確な診断と治療、眼瞼けいれん・片側顔面けいれんに対してのボトックス注射による治療も行っています。特殊外来として「物忘れ外来」を行っています。

また、2017 年から厚生労働省が掲げる「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の一施策として、認知症の患者さん、ご家族、専門家、地域住民が集い、交流や情報交換を主な目的とした「認知症カフェ」を昭和大学病院附属東病院で月 1 回開催しています。認知症患者が増加することが懸念される中、非常に重要な取り組みとして認知症カフェは注目されています。ご興味のある患者さんやご家族の参加をお待ちしています。

特徴的な診療領域

・脳卒中治療

脳卒中に対応する専属医師を配置し、24 時間体制で積極的な超急性期脳卒中の治療を行っています。脳卒中治療は t-PA（※）に加え、脳神経外科と連携協力し血管内治療を含めた迅速で質の高い医療が提供できるよう、チーム医療に取り組んでいます。

※脳梗塞の多くは血栓（血の塊）が脳の血管に詰まって発症します。そこで血栓を溶かす薬剤を使い、血流を回復させる治療です。血管を詰まらせている血栓を薬剤で溶かし、血流を即回復させる「血栓溶解療法」を当科で実施しています。

・神経変性疾患

パーキンソン病やアルツハイマー病などの神経変性疾患の診断治療に力をいれています。頭部 MRI や脳血流シンチグラフィーなどの画像・核医学検査に加え、ApoE、アミロイドβやシヌクレインなどの各種脳背髄液バイオマーカーを積極的に活用しています。また、専門の臨床心理士による神経心理学的検査を行い質の高い診断を行い、治療に繋げています。

神経内科　診療科長：小野 賢二郎（Ono Kenjiro）
趣味：音楽鑑賞、研究

今後は、城南地区の脳卒中患者の受け入れを積極的に行い、超早期に対応することで、後遺症を少なくして自宅に戻っていただけるよう、全力で取り組んでまいります。また、現在の社会的ニーズである認知症治療の充実を目指して参ります。認知症は早期の診断や治療介入が重要ですので、認知機能の低下が疑われる患者さんは積極的にご紹介頂ければ幸いです。脳卒中や認知症患者の診療方針が定まりましたら、先生方のもとで引き続きご加療頂けますよう、地域連携を深めて参りたいと考えております。

専門外来のご案内
「もの忘れ外来」

「もの忘れ」と「認知症」って実は違うんですよ

「もの忘れ」は老化による記憶力低下であり、病気ではありません。一方、認知症は病気であり、早期に適切な治療を始めないと症状が更に進んでしまいます。ただ、もの忘れと認知症の初期症状は非常に似ているため、判断に困ることがあります。また、診断を知って、それに合った対応をすることで問題行動を防いだり、もの忘れの進行を緩めることができることもあります。当外来では認知症専門医による診察と検査によって診断を行い、ご本人や家族の意思を確認しながら今後の治療と対応の方法を話し合います。

対象の患者さん

もの忘れを自覚し不安に思っているご本人、またはご本人が自覚していなくとも家族など身近な人から見て、最近もの忘れが進んでおかしいと思われる方。

（同じ話をしたり聞いたりする、約束の日時を忘れる、失くし物や探し物が増えた、今まで好きだったことに関心がなくなった、時間や場所の感覚が鈍くなった、些細なことで怒りやすくなった　等）

治療について

簡易認知機能検査、画像検査等による診断。もの忘れ進行予防の生活指導、認知症と診断された場合の原因疾患に対する薬物療法、ケア相談など

※もの忘れ外来は診断・治療導入のための特殊専門外来のため、原則診療継続は行なっていません。当科受診後の継続的な診療は、かかりつけ医療機関で受けていただいております。

予約の手続きについて

◆外来日：毎週月曜日：午後

◆「完全予約制」です。専用予約ダイヤル（03-3784-8419）へお電話いただき、「もの忘れ外来」のご予約をお取りください。

◆担当医：小野賢二郎、村上秀友、金野竜太、矢野怜、黒田岳志、他

昭和医療連携メールマガジン配信について（医療機関専用）

メルマガ配信始めました

地域医療機関の先生方に昭和大学病院･昭和大学病院附属東病院の情報を幅広く知っていただくと共に、「先生方がお役に立つ情報（新しい新規治療、専門外来など）」、「病院の取り組みや行事」、「病院だより」等を定期的にメール配信いたします。メール配信を希望される方は、下記のメールアドレスへご連絡をお願いいたします。

（1）お申し込み先（アドレス）

昭和大学病院　医療連携担当メルマガ宛　　showa-merumaga@ofc.showa-u.ac.jp

（2）お申し込み方法

①メール：上記アドレスに配信希望メールをご送付ください

※必ず「クリニック名」、「院長名」をお入れください。

②FAX：指定のフォーマットはありません。医療連携室宛に FAX をお願いします

（FAX 番号：03-3784-8822）

今月の熱血医療人
Vol.12「慢性呼吸器疾患看護認定看護師」

～このコーナーでは専門資格を有している
熱血メディカルスタッフの方を紹介します～

Q. どういった専門資格でどういった仕事をしているのか

和田　麻依子さん

2012 年に認定分野として新しく認定され全国で２４４名が活躍しています。気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺炎などの呼吸器疾患患者さん、神経・筋疾患で呼吸器に障害を持っている患者さんの安定期・急性期・終末期に応じた呼吸機能の評価、リハビリテーション、自己管理のための教育とスタッフの教育・支援が役割です。

現在の所属は HCU ですが、呼吸器センターでも活動をしており、患者さんの呼吸機能の評価・リハビリテーション、日常生活指導を行い早期に退院できるように支援しています。　また COPD ケアチームの一員として呼吸器教室とフライングディスク大会を年２回開催しています。

Q. 患者さんに対してのメッセージをお願いします。

呼吸器教室・フライング大会は COPD 患者さんを対象として行なっています。　呼吸器教室は医師・薬剤師・栄養士・理学療法士から疾患の知識、日常生活の注意点、リハビリの講義をしています。フライングディスク大会はフリスビーを投げてゴールに入った回数を競う合う競技をリハビリテーションの一貫として開催しています。この活動を通して患者さんの日常生活の質向上や外出のきっかとなる手助けができたら嬉しいです。

今月の「ありがとう」 Vol.3
「中材滅菌室」

～このコーナーでは病院を裏で支える、
医療スタッフの業務紹介、エピソードを紹介いたします～

Q. どういったお仕事に携わっているのですか？

【左：平松　幸恵さん
右：河部　裕紀さん】

私たちは、外来・病棟・手術室で患者さんに使用した鋼製小物などの器械を洗浄・消毒・滅菌を行い、安全な器械を供給する仕事をしています。院内のほとんどの器械の再生処理を行っているため、迅速かつ正確に業務を遂行することが重要です。そのため、正確な知識をもって一つ一つ確認しながら業務を行っております。また、手術の入退出の補助や使用器械カウントなどを行う手術室ヘルパーや、手術室清掃も行っております。私たちは滅菌のプロとして、常に新たな情報を取り入れ、その得た情報を日頃の業務に反映し、より質の高い業務を行うことでチーム医療に貢献していきます。

Q. 何か思い出に残るメッセージをお願いします。

私たちの業務は、縁の下の力持ちとして医療を陰から支えるため、直接患者さんに御礼を言われることはありません。しかし、私たちが行っている業務を理解して、「いつもありがとうございます。」と職員の方に声を掛けていただくことがあり、その度にとても嬉しく思い、私たちのやりがいに繋がっております。

患者さんに使用する器械が清潔であることは当たり前の事であると考えております。
私たちは今後も、当たり前のことを当たり前であり続けるために日々精進していきます。

いつも手術ができるように準備をしていただき、ありがとうございます！
～スタッフ一同より～

防災担当係勉強会の開催報告

【防災担当係勉強会の様子】

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院では、災害(防火)対策委員会、災害(防火)対策実務者委員会を設置し、委員長の指揮のもと、様々な防災訓練を実施しております。中でも部署別ブロック訓練は各部署単位での防災訓練として本年度で６年目となっております。今年は、部署別ブロック訓練の実施回数を２回から１回に変更し、防災担当係の防災知識向上のため各部署の防災担当係を対象とした防災担当係研修会を６月28日(水)と７月18日(火)の２日間で開催しました。

当日の研修会では、前回の部署別ブロック訓練の反省を踏まえ、災害時の行動等の確認をしました。東京都より指定されている災害拠点病院、災害医療支援病院としての役割(災害発生時に２４時間体制で被災した傷病者を受け入れる役割など)を担うべく、昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院は日々邁進していく所存であります。今後とも宜しくお願い致します。

文責：管理課

熱中症の予防･対策について

昭和大学病院　救急医学科　土肥　謙二

毎日暑い日が続き、**「熱中症に気をつけて」**が夏の定番の挨拶のようになっています。熱中症の予防として“**水分、塩分の摂取、適切なクーラーの使用**”が広く知られています。しかし、その具体的な方法についてはあまり知られていないのでは無いでしょうか？一般的にはスポーツドリンクや市販の経口補水液などが知られていますが苦手な方もいると思います。そのような方はお茶やお水と一緒に必ず塩分を摂るようにしてください。(塩分制限が必要な方は担当医にご相談ください)。お味噌汁、梅干し、塩昆布などがお勧めです。摂取量の決まりはありませんが尿の量や回数が減ったり、尿の色がいつもより濃かったりする場合には体内の水分が不足している可能性があります。

また、飲水した水分が体内に吸収されるにはある程度時間がかかるので、散歩や運動する場合には、その30分前くらいからの飲水が効果的です。夜間就寝中は多くの汗をかく一方で、長時間飲水もできないので就寝前の飲水も重要です。最近では室内で熱中症になってしまうケースが増えていますが、高齢者や女性の中にはクーラーの使用を嫌う方も多いと聞きます。そのような方におすすめなのが水浴です。とはいっても冷たい水でなくても結構です。ちょっと冷たく感じる程度の温度でも十分に体温は低下します。「水浴はちょっと」という方には冷水のシャワーで頭部と顔面の皮膚を冷やすだけでも脳の温度を下げる効果があります。

熱中症を予防して短い夏をエンジョイしてください。

七タライトダウン実施報告　～ライトダウンする夜は、みんなが地球を想う夜。～

７月７日(金)の七夕に、昭和大学病院と昭和大学病院附属東病院で「七タライトダウン」を行いました。当日は、20：00～21：00 の間、可能な限り電気の消費量を減らす取り組みを実施しました。この活動は、地球温暖化防止にもつながり、未来の環境をも守ります。

微力ながら、七タライトダウンをきっかけに意識的に CO_2 削減に努めることができましたが、今後、より一層、昭和大学病院と昭和大学病院附属東病院では地球温暖化防止対策に貢献していきたいと考えています。

「七タライトダウン」にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

小児医療センター七夕会

小児医療センターでは季節を感じられるいろいろなイベントを行っています。
７月７日は七夕会を行いました。七夕のお話を聴いたり、切り絵を貼ってカレンダーを作ったり、歌を歌ったりと盛り沢山。みんな笑顔のステキなひとときを過ごしました。

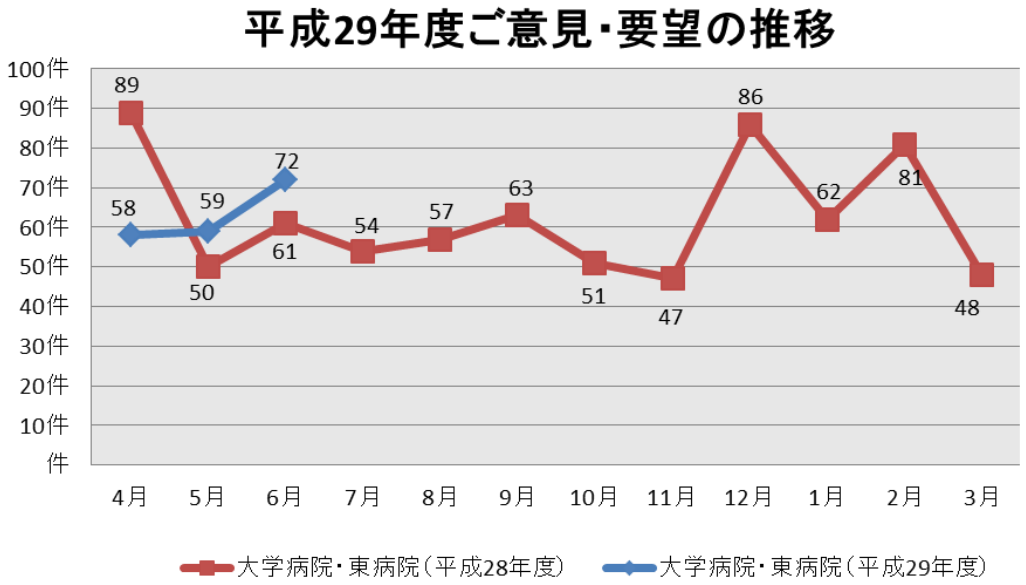
色々な制約の中で過ごしている子どもたちは、季節感のあるイベントはとても楽しみです。七夕会では夜空を想像しながらお話を聴いたり歌ったり、そしてカレンダー作りで思い出も残りました。みんなとてもいい表情でした。笹には沢山の願い事の短冊。
みんなの願いが叶いますように。

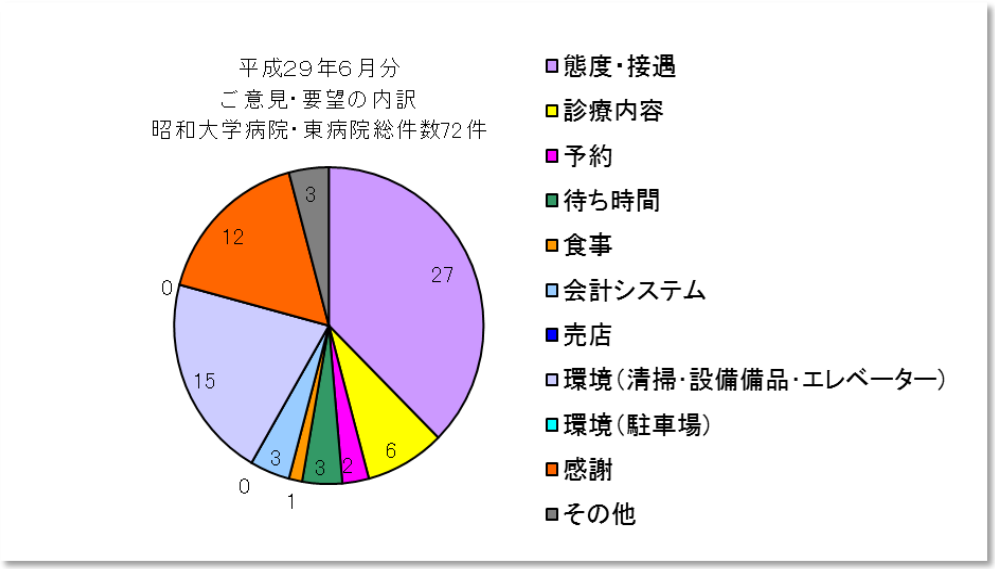
小児医療センター
伊宝田　さとみ

【小児医療センター七夕会の様子】

患者さんのご意見・要望

ご意見・要望	回答	回答部署
若手の方が検査した後、検査の精度をよくするためとベテランの方がさらに検査されましが、時間の無駄だと思うので一回で済ませてください。	この度は検査に時間を要してしまい申し訳ございませんでした。当院は特定機能病院(大学病院)として、高度な医療の提供の他に医療者の教育も責務としている教育機関でもあります。そのため、いわゆる若手の職員も多数勤務しておりますこと、ご理解ご協力くださいますようお願い致します。	クオリティマネジメント課
検査室に入ったら、先生以外に４～５名いて驚きました。大学病院なので学生さんなどと思いますし、それは全然かまわないのですが、何か一言あっても良いかと思います。	この度は不快な思いをさせてしまいまして申し訳ございます。当院は教育機関でもありますので学生や実習生の受け入れを行っております。しかしながら、ご意見頂戴しましたとおり、そのことを当たり前とせず、一言挨拶を交わすことを徹底してまいります。 なお、このことは当院だけでなく、大学とも共有し、指導者への再周知を行いました。	
診察中に、先生のＰＨＳが鳴って出られました。先生もお忙しいとは思いますが、電話に出る前にはせめて一言合ったら良いなと思います。	この度は不快な思いをさせてしまい申し訳ございませんでした。患者さんの前で別の対応が必要になった場合には、お声がけすることを徹底するよう再度周知いたします。	





院内コンサートの開催報告

７月 22 日(土) 昭和大学病院中央棟 1 階ロビーにて、第 80 回昭和大学病院院内コンサートを開催いたしました。今年度から土曜日週日診療となり、開催時間の変更や、準備の流れが大きく変わりましたが、ボランティア・職員ボランティアの協力の下で、再び開催につなげる事が出来ました。

二度目の出演を熱望して下さった女性コーラス‘雅’と香蘭女学校‘クワイヤー’の爽やかな声と、落ち着きのある声で会場に明るさが戻ってきました。

患者さんからいただいた感想

●手術後、病室にこもりきりだった娘、心も身体も滅入っていましたが、とても気分転換出来ました。ありがとうございました。

●頑張っている全ての患者さんにエールを送りたくなりました!!

●美しい歌声に心洗われました。可愛らしい歌声の後に女性の大人らしい歌声、本当に良かったです。

【院内コンサートの様子】

次回開催日：平成 29 年 9 月 30 日（土）　　17:00～17:45

出演：おもひでサンデー（マンドリン演奏と歌）

編集後記

さて、今月の内容はいかがでしたか？毎月、専門外来や熱血医療人を楽しみにしている方もおられるかもしれません。折々のイベント案内や実施報告も季節を感じるきっかけになれば幸いです。七夕ライトダウンで意識した環境問題を、今月は「山の日」に涼しいイメージを持ちつつ、まだ続く暑さの中、冷房の設定温度で改めて考えてみては。熱中症に気を付け水分補給する一方で、節水についても皆で意識して取り組みましょう。

白井　敦

昭和大学病院･附属東病院の理念

- 患者さん本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員：　荒川 千春、飯田 真由、磯飛 雄一、稲垣 克記、大嶽 浩司、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、中村 清吾、平野 勉、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50 音順）